

令和元年度第2回小田原市青少年問題協議会 会議録

1 日 時 令和元年11月5日(火) 午前10時～午後0時

2 場 所 小田原市役所 議会全員協議会室

3 出席者

- (1) 委 員 加藤憲一(会長)、橋本輝夫(副会長)、石幡保雄、井上和子、大場得道、
柏木良子、川瀬貴美子、杉本聡、立花ますみ、津田清、西澤浩之、星崎信幸、
堀賢一郎、前原元樹、眞壁誠一、宮内宏人、和田重宏
- (2) 事務局 北村子ども青少年部長、中津川子ども青少年部副部長、吉野青少年課長、
笹井青少年課副課長、淵上青少年課副課長、横山育成係長、福田主査、
菊地主任、神田主事

4 議 事

(1) 協議事項

- ア 小田原市青少年善行賞の選考
イ 優良青少年団体並びに青少年育成功労者等表彰における被表彰者の選考
ウ 青少年と育成者のつどいについて
エ 成年年齢引下げに伴う成人式の開催について

(2) 報告事項

- ア 令和元年度上半期の主な青少年関係事業の結果報告
イ (仮称)おだわら子ども教育支援センター開設に係る条例の改正等について

(3) 意見交換

(4) その他

5 会議の概要

(1) 協議事項

ア 小田原市青少年善行賞の選考

該当者なし

イ 優良青少年団体並びに青少年育成功労者等表彰における被表彰者の選考

事務局案のとおり承認

ウ 青少年と育成者のつどいについて

事務局

資料4「青少年と育成者のつどい開催要項」について説明。

会長

事務局からの説明について、何か御質問、御意見等があればお願いしたい。

特にないようだが、年々、中学生の主張は聞きごたえがあるものが多くなっている。中学生の話を聞いていただくと胸に迫るものがあるので、大いに期待していただければと思う。

エ 成年年齢引下げに伴う成人式の開催について

- | | |
|-------|---|
| 会 長 | 続いて協議事項エ「成年年齢引下げに伴う成人式の開催について」を議題とする。事務局から説明をお願いします。 |
| 事 務 局 | 資料5「成年年齢引き下げに伴う成人式の開催について（対象年齢の決定）」について説明。 |
| 会 長 | 事務局からの説明について、何か御質問、御意見等があればお願いしたい。 |
| 井上委員 | 前々職で選挙管理委員会にいた。20歳になると選挙に行けるということで、成人式は広報の良い機会であると思っていた。20歳で成人式を行うことに異論はないが、選挙権年齢引下げについても機会を捉え、広報してもらいたい。 |
| 会 長 | 成人になって何がどうできるようになるのか、皆さん承知されているとは思いますが、周知する意味でしっかり広報はしていきたい。 |
| 柏木委員 | 「はたちの同窓会」というネーミングだが、20歳で同窓会というのはどうなのか。仲良くするだけのよう思われがちなので、安易に「同窓会」という言葉を使わず小田原市として期待したいことを込めたネーミングがあってもいいと思う。 |
| 会 長 | 実行委員会形式で行っていることから出てきた言葉だと思うが、その点に関しては事務局から説明させる。 |
| 事 務 局 | 「はたちの同窓会」というネーミングは、現在の成人式のサブタイトルで使用している。ネーミングの在り方については、サブタイトルも含めて今後の検討材料としていきたい。 |
| 和田委員 | 8回くらい成人式に出席したが、雰囲気あまり良くない。お祝いしてあげるといふ気持ちが強くて、地域で育ててもらったという意識が会場全体の雰囲気としてほとんど感じられない。我々としてはお祝いしてあげたいという気持ちはあるので、成人たちも少しは感謝の気持ちを持ってほしい。
地域によって成人式は様々で、沖縄の小さな島では「感謝の会」という名称で行われており、我々の世代の人間が思うからかもしれない |

が、報道を見ても気持ちがいい。

地域によって形式も開催時期も違う。正月や夏休みに行く地域もあり工夫している。この際、抜本的に考え直してもいいのではないか。これは希望である。

会 長

非常に同感する部分もある。和田委員が仰るように、横浜市のような大きな都市では、横浜アリーナを使用して何回かに分けて行い、酔っぱらった若者が乱入したりということもあれば、地方の小さな町ではこじんまりとした中で地域の大人たちに見守られて肅然と行われているものもある。成人式の中身については色々な議論があると思うが、今後の大きなテーマである。

昔はそうだったと聞いているが、例えば地域ごとに行くことで顔が見える関係から感謝の気持ちも起きるであろうし、形式についての思いは皆さんお持ちだと思うので、別の機会に議論がどこかでできればと思う。

今日は御意見を出していただいて、最終的に年齢について確認をしたいと思う。

橋本副会長

いろいろな事情を考えると成人式は 20 歳で行うことがいいと思う。実行委員形式で行っているが、その後の反省点を青少年課でまとめているなら今後検討会などに意見を出してもらって参考にした方がいい。

あくまでも主役は会場に来られる成人である。来場者にアンケートを取るのいいが、大変なので、実行委員会のメンバーの反省点を聞いて今後の参考とした方がいい。

西澤委員

学校の行事を行う際には、儀式的なもの楽しむものと目的に応じて取り組んでいるが、成人式という儀式的なものと同窓会的な楽しむ部分とごちゃ混ぜになっている気がする。参加している先生からも「どこの中学校がうるさいのか」という声もあるので、中学校単位で座らせるのも面白いと思う。今は現職の校長が参加しているが、当時の校長が参加したほうが成人達には良いのではないかという話も出ている。

市長が挨拶する前などに「ここでしっかり聞きましょう」や「静かにしましょう」などのアナウンスが一度もない。実行委員会を指導する青少年課などが、式の中に盛り込んで話を聞く場面と楽しい場面のメリハリをつけた式になるような工夫をしていただきたい。お祝いに来られてる方々に「いい成人式だった」と思っていたら、成人側も思い出に残るようなものを考えていただきたい。せっかくの機会な

ので、色々工夫をお願いしたい。

会 長

ありがとうございます。皆さんいろいろな思いを秘めて会場にいらしている。その他はいかがか。

立花委員

成人式を20歳で行うことは揺らがないと思う。

小田原東高校では、体育大会での派手な格好をしたお祭り騒ぎが嫌だという生徒が多い。文化祭でもはじけるよりルールを守ってやりたいという生徒が多い。そういう現状の中で成人式を行うのであれば、厳粛なところは厳粛にある程度けじめが必要な式典であると思う。もう大人なのだからそういう意識を持たせるような工夫が必要である。

杉本委員

会場の中ではなく外で警備を行うのが推進員であるが、年々成人は静かになっていると感じている。しかし騒ぐ成人もいるので、そういう成人も感動できるような式は必要だと思う。地域で行うのを検討するのは良いと思うので、検討していただきたい。

20歳で成人式を行うことは賛成である。

星崎委員

私が成人式の時は昭和64年だったので、式自体が無くなり、代わりの集まりはあった。感覚的には成人式というのはみんなが集まるのは一種のパーティーであり、今の成人も同じような感覚ではないか。個人的にはパーティーの機会を市が提供するというのはどうなのか。別の形を考えても良いのではないかと思う。

会 長

ありがとうございました。成人式の在り方についてはいろいろ御意見があると思うが、また別の場で別の機会に議論していきたい。いただいた意見は2022年の成人式に反映できるよう積極的に意見を詰めたいと思う。

それはそれとして、本日皆さんに御審議いただきたいのは年齢の件であるが、20歳で行うことでよろしいか。

(全員賛成)

それでは、本市の成人式については、事務局案のとおり、成年年齢引下げ後の2022年4月以降も20歳の方を対象に行うのでよろしく願いしたい。詳細についてはまた皆さんの御意見をいただくこともあるかもしれないのでよろしく願いしたい。

(2) 報告事項

ア 令和元年度上半期の主な青少年関係事業の結果報告

会 長	次に報告事項に移る。「令和元年度上半期の主な青少年関係事業の結果報告」について、事務局からの説明をお願いします。
事 務 局	資料6「令和元年度上半期の主な青少年関係事業の結果報告」について説明。
会 長	<p>見守りの拠点が各地で増えてきている。子ども食堂のスタイルが増えてきており、子どもだけでなく地域の大人も参加するような居場所として広がりを見せているのが今年度の新しい動きになっている。準備中や動き出している地区があるので、いい意味でそれぞれの地域らしいものができると考えている。</p> <p>指導者派遣については、おだわら自然楽校で学んだ方々がかなりの頻度で子ども達の指導に携わっている。</p>

イ (仮称) おだわら子ども教育支援センター開設に係る条例の改正等について

会 長	次に「(仮称) おだわら子ども教育支援センター開設に係る条例の改正等について」、事務局から説明をお願いします。
事 務 局	資料7「(仮称) おだわら子ども教育支援センター開設に係る条例の改正について」説明。
会 長	<p>事務局からの説明について、何か御質問、御意見等があればお願いしたい。</p> <p>特に御意見等はないので、このとおりに進めさせていただく。4月の開設に向けて内装の工事や機能の整理を進めている。完成すれば世代を超えてワンストップで対応できる。また、学齢期を終了した後も引き続きフォローできる体制になるので御協力をお願いしたい。</p> <p>報告事項は以上とする。</p>

(3) 意見交換

会 長	それでは会議終了までの時間、意見交換の場を設けたい。事務局からテーマについて説明願いたい。
事 務 局	本日のテーマ「青少年の社会参加に向け、地域や団体ができること」について説明。

会 長

最近では、子ども会に入る子どもが少なかったり、地域のイベントに若い人が参加しないということがある一方で、青少年達が社会参加や社会的自立に向けて様々な課題を抱えている状況を踏まえると、青少年が地域に参加する、また、その機会を作っていく必要があるのではないかという問題意識を持ってテーマを設定した。

皆さんには事前にテーマの主旨を送付し発言の準備をお願いしているので、順次御意見を伺っていきたいと思う。

眞壁委員

子ども達は過渡期だと思う。小学生が公園で集まってスマホを見ている。スマホのほうが楽しいのではないか。

育成会では、昨年から情報発信事業として、子ども達が参加できる行事を発信しているが、子ども達も活発に参加している。子どもの居場所作りでは、伝統文化を継承するということで、山王地区の子ども達全員参加でどんど焼きを行ったり、納涼祭での盆踊りの練習会を行っている。継続して行うのは難しいと思うので、単発の事業として行っているが、今の子ども達が中学生になる頃に、継続してくれる子もいるのではないか。

会 長

ありがとうございます。山王地区の地区懇談会では、情報発信の資料を見せていただいて熱心に活動されているのは知っている。情報発信をして、子ども達が集まってくれるという感触があるのか。

眞壁委員

そのとおりである。昨年より今年の方が活性化している感じがする。

会 長

山王小学校の校長先生がいらしているので、今の話を聞いて何かあるか。

堀 委 員

学校の活動として、文化の継承ということで、最初はどんど焼きに参加した。この地区は珍しく浜に組んで行う。子ども達にも見せたいということで、2月15日に生徒を皆引き連れていった。来年も楽しみにしている。

まちづくり委員会の中で、納涼祭への参加が少ないという意見がでた。体育大会が廃止になったこともあり、体育の授業で伝統的な小田原小唄を伝えていかなければいけないということで婦人部が講師となり行った。今年は70区の納涼祭には神社の境内に溢れるくらい子ども達が参加した。今後は木遣り唄を考えている。これから毎年行えば6年生になる頃には歌えるのではないかということで取り組んでいる。

会長	<p>学校と地域が一緒になって行うことで参加率がかなり高くなっている。地域の側としてはどうか。</p>
石幡委員	<p>少子化でスポーツ少年団では子どもの取り合いになっている。そうしないとスポーツ少年団が成り立っていかない。</p> <p>今年の健民祭は、種目に比べて子どもの参加が多かった。賞品が足りなくなるくらいだった。なぜかと言えば、スポーツ少年団の試合が無かったため、子ども達に聞くと健民祭にも参加したいが、スポーツ少年団の指導者からこちらに来いと言われてしまう。</p> <p>子ども達からすれば、賞品が出てスタンプラリーもあるので、地域の行事に参加したいと思っていると認識した。子ども達が参加すると健民祭も盛り上がる。</p> <p>また、連合子ども会の希望で区民祭でハロウィンの仮装行列を行ったが、これも盛り上がった。体育振興会や自治会だけでなく、連合子ども会も絡むと区民祭が盛り上がる。そういうことも必要であると認識した。</p>
会長	<p>大窪地区の健民祭も見学したが、かなりの人達が参加していた。他のスポーツ団体と日程が重なっていないと聞いて納得がいった。それは結構重要なことで、日程やプログラム次第で子ども達は参加してくれるという一つのいいケースだと思う。</p>
川瀬委員	<p>酒匂地区の区民体育祭は子ども達が少ないので年々寂しくなる。子ども会単位で行事が組まれているので、子ども会に入っていない子どもは参加できない。自治会と子ども会がタイアップして、子ども会に関わらず参加できるようにすればもっと増えると思う。子どもが参加すれば親も出てくるので、賑わうようになる。</p> <p>酒匂地区で来年子ども会が無くなる話もあり、ますます区民体育祭が寂しくなる。酒匂中学校の生徒が区民体育祭や敬老会へボランティアに参加しているが、世代間交流ができるので必要だと思う。</p>
会長	<p>敬老行事にも中学生が多数参加しているので、参加者は心強いと思う。ただ、行事の数も多く参加するのも楽しいと思う。</p>
川瀬委員	<p>先日、酒匂中学校の生徒に挨拶された。どこかの行事で会ったのだと思うが、ボランティアを続けていてよかったと思った瞬間である。触れ合うことが重要だと認識した。</p>

会 長

それでは、長年環境浄化活動に携わってきた大場委員いかがか。

大場委員

環境浄化としては普段青少年と接したり情報発信することもあまりないが、環境浄化推進委員として、有害図書の回収やカラオケボックスなどの社会環境実態調査を行っている。中学生と直接向き合うとすれば中学校視察がある。今年度も3校に訪問するが、生徒は落ち着いてほとんど問題がないと聞いている。非行犯罪が非常に少なくなり、小田原市では保護観察になるケースはないが、平塚市まで範囲を広げればまだまだある。清掃奉仕では50人くらいの中高生が参加してくれて、非行を犯した人の社会貢献に携わっている。

また、地区の敬老会に参加したが、千代中学校のブラスバンドが参加していたのには感動した。

会 長

次に青少年を取りまく状況について前原委員からお話を願います。

前原委員

少年を取り巻く犯罪については良い環境になりつつあり、犯罪は減ってきている。少年補導についても、5年前くらいは1,500件程度で推移していたものが今年は500件強くらいになりそうである。青少年自体の数が減っていることもあるが、地域のボランティアや関係団体の活動の成果が表れていると思っている。

自分の出身は大井町であるが、子ども会には入っているが自治会には入っていない家庭もある。小学校時代が一番参加することが多かったが大きくなるにつれて参加しなくなってくる。

警察の観点からすると、盆踊りの音がうるさいという苦情が入ることが多くなった。警察としては、地域が活性化すれば犯罪は減ってくる。犯罪が起きにくい街になるので、色々な行事を行ってほしい。必要であれば警察を派遣することもできるので活用してもらいたい。

会 長

子ども会が無くなる、スポーツ少年団が忙しくて参加できない、という話がある一方で、子ども達は地区の行事に参加したいと思っているし、それを難しくしている家庭環境などがあるということが浮かんできたと思う。

残りの時間で、地域や団体が活動していく中で、交流や体験が進んでいくような有効な取り組みや実践の報告や提案があれば伺いたい。

柏木委員

曽我地区だが、連合子ども会の負担が重いので休会したいという話があったが、実際には単位子ども会は存続している。このことを連合

子ども会や行政が把握して、北条五代まつりへの参加など単位自治会で参加できるようにしてもらえればありがたい。

橋本副会長

小学校単位で連合子ども会があり、その下に単位子ども会がある。5年前は単位子ども会が130あったが、現在は100しかない。連合子ども会も25から20になっている。

私も曾我地区の会長と話したが、なかなか難しい。それは行事に際して加入している傷害保険が、連合子ども会への加入が必須となっているためである。

単位子ども会同士で集まっていただき、代表を決めて、連合子ども会からの情報をその代表に伝えることは可能である。なかなか難しいが、いろいろな方策があるので御相談いただければと思う。

柏木委員

私としては子ども会ではなく、行政が情報を把握し、ケアしてほしいということで話をした。

北村部長

お話された状況は市としても承知しており、市としてどうすれば皆さんの御要望に沿えることができるのか検討している。

会 長

子ども会にまつわる問題は、自治会との体制の擦り合わせも含めて潜在的にある。現場で活動している育成会はどうか。

杉本委員

社会参加に向けた有効な体験は、世代間交流が重要である。私達も市から委託事業として地域少年リーダー養成講座を開催しているが、定員48名をいつもオーバーしている。保護者はそういう場を必要としていると感じている。

動画配信で疑似体験ができるので、現実にはやらない子どもが多いのではないかと。実際に参加すれば楽しいと思うので、参加してもらう工夫が必要だと感じている。

津田委員

県西教育事務所では、県西10市町の教育を管轄している。

学校教育が主だが、社会教育も携わっており、取り組み事例としてよく出されるのが防災訓練である。そこに中学生が参加するという事例がいくつかある。高校生以上の方は休みの日は地区外に出てしまう。中学生は地区内にいるので、いざというときに大きな力になる。非常にいい取り組みだと感じている。

また、令和2年度から小学校、令和3年度からは中学校の学習指導

要領が改訂され、「開かれた教育課程」というキャッチフレーズで、教育を学校だけでなく地域の力を借りて一緒にやっていきたいと思いますという取り組みが始まる。小田原市の中でも、学校運営協議会、いわゆるコミュニティスクールが始まっているところがあるが、それを広げていきたいと思いますということである。

もう一つは、地域・学校共同活動である。今までも見守りや読み聞かせなど、様々なボランティア活動など、地域の皆さんの力を借りて学校教育をやってきたが、これまでは学校側が地域にお願いする形になっていた。今後は学校、地域の「育てたい子ども像」を共有し、目指すところを一つにしてやっていきたいと思いますというのが今後推進される。地域の皆さんも学校も今日の議題の方に結びついていくようなことが達成していけばよいと思っている。

会 長

こういった情報を地域に出していただきたい。本市のコミュニティスクールも立ち上がったばかりで実態部分はやることはいろいろある。

防災訓練については、色々な地区で中学生に参加してもらっており、中学生をあてにしている地域も増えている。これはいい取り組みだと思う。

星崎委員、地元の足柄地区で様々な活動をされているが、そういった観点から取り組みや意見があればお願いします。

星崎委員

まちづくり推進委員会の中で、公民館を週1回開放し、居場所作りを行っている。地元の子ども会や商店街の活動、地域の活動も含めてだが、担い手がない。これが続けば事業自体ができなくなる。

保護者はいるが、ネットワークがなく、横のつながりがないので、誰にお願いすればいいか分からない。また、プライベートの時間、時には仕事の時間を犠牲にするので、余裕がある人でないとできないが、皆余裕がない。

子どもの居場所作りなどいろいろな活動をやりたいが、結局誰がやるのか、という話になる。やってくれる人が見つからないので、継続してやるのが難しくなるのが切実な問題である。

会 長

担い手の問題については我々も重く受け止めており、小田原市民学校を立ち上げて、いろいろな分野の担い手の育成をしているが、これで解決するわけではないので、各地域で自前の担い手を小さいうちから育成する必要がある。

宮内委員、桜井地区の連合自治会長として防災を含めていろいろな

取り組みをされているが、御意見よろしいか。

宮内委員

我々が行っている行事、それが本当に必要なのか。行事の見直しも必要。

参加者が少ないと言っているが、なぜ来てくれないのか、児童・生徒が何をしてほしいのか、どういうものを求めているか実態調査のようなものが欲しい。我々が考える行事というのは今までの経験で行っている部分がある。本当に子ども達が要求している行事なのかは考えていない。子ども達が楽しんでいるか聞いていない。

桜井地区の子どもの数は、10年前から5%程度しか減っていない。ただし、子ども会に加入していない。なぜ加入しないのかを掴みきれしていないので潰せない。これは単位自治会や連合自治会がヒアリングしても難しいと思う。

アンケート項目も難しいとは思うが、全市的にアンケートを取りたい。なぜかというところが分かれば対策を取れるのでそこを知りたい。

会 長

ありがとうございます。皆さんから具体的はものも含めてお話いただいた。

この話は尽きないところではあるが、皆さんからの意見では、参加する子ども達の側の問題、生育環境などの変化によって日々の暮らし方こそ変わってきているが、機会があれば参加したいのではないか。また場の設営をする側も課題があって難しいという観点からもお話しいただいた。

本日は結論を出すわけではないが、今日は様々なヒントをいただいたので、今後の青少年育成の取組に反映できるものはしていきたい。

また、引き続き継続的な議論の場としてこの協議会を使いながら議論を深めてもらいたい。よろしくお願ひしたい。

(4) その他

会 長

続いて議題の(4) その他ということで何かあるか。

石幡委員

芦子地区の「からたちハウス」という子ども食堂だが、主催者は板橋地区の人間であり、板橋地区で開設してもらいたかったが荻窪で始まった。それでも私が料理を作って提供するという支援をしていた。

昨年の9月から今年の10月まで1年強続けたが、予告なしで辞めてしまった。今後どのような支援をしていくのかと考えている。

この窓口は青少年課なのか。どういう支援をしているか。

事務局 青少年課が窓口である。子ども達に対して居場所となる公民館や学校などで、地域の方々が体験事業や学習会、食事を提供するなどしながら、地域の方々と交流を持つということを月に1回以上行う場合に負担金を支給している。地域の方々とつながりたいという場合にはまちづくり委員会や学校につなげたりもしている。

石幡委員 本来は違った支援をしたかったのだが、料理での支援を思い立ち実施していた。昨年の報告には入ってなかったが今年入っていたので目に留まった。

事務局 9月に開設したが、当初は登録制で地域の子ども達を対象にしていなかったため、青少年課の支援とは趣旨が違うということで見合わせていた。その後、広く地域の子ども達を対象にしたことで今年の8月から支援の対象となった。

和田委員 プリント2枚お配りした。1枚は「就職氷河期世代支援」で国から提示された。3年間で30万人の正規雇用を目標とする。就職氷河期世代と言われるのは37歳から48歳だが、この世代が対象となる。
若者サポートステーションはこれまで39歳までの対応だったが、来年度から49歳まで対応することになり、名称も「若者サポートステーションプラス」となる。
若者のひきこもりの数は54万人だが、40歳から64歳までのひきこもりは61万人で若者より多い。そのうち40万人が就職氷河期で就職できずにいる人になる。
皆さんの周りにもそのような人たちがいると思うので、ハローワークやサポートステーションを利用してもらいたい。

会長 ありがとうございます。事務局からは何かあるか。

事務局 本日卓上配付の11月26日（火）開催の「青少年健全育成講演会」の案内と、個人情報を含んだ資料3の持ち帰り禁止を伝えた。

会長 少し時間が超過してしまっただが、以上をもって青少年問題協議会を閉会とさせていただきます。長時間に渡りお疲れさまでした。